皇道義盟の結成

雜誌「愛國」稿

建國祭の吉辰をトし、全九州を網羅せる愛國の志士を以て結盟式を久留米市に擧げられた、結盟式は近來流行せゝ如き華美なるものではなかつた、各地に散在する血を吐く如き憂國熱血の士三千餘名の精神を吐露し隔意なき融合混一の擧式であつた。

座長塚本豫備大佐の嚴然たる威儀の下に進行する結盟式は、祖國日本の將來を背負ふべき氣慨ある空氣を以て、充たされたる事は誰人も直感せし處であつた、此の眞正なる憂國至誠の中に結成せられたる皇道義盟の運動方針も亦確かに特異の色彩顯著なるものがあり、其一例としては、從來の如く人員獲得の戰術を全然精算し陸軍の示す國防敎化を第一目的とし、其敎化されたる者を以て義盟の分子たらしむ可き遠大なる企圖の上に其力强き歩度を踏み出したるもので量より質を選ぶ事を生命とする皇道義盟の將來如何なる運命が之を迎ふるや、全く時代風潮形式外に超然として獨歩する前途社會の耳目を引く處である。

此の地味なる皇道義盟は地方問題には關係せず、又目下の處他愛國團體との提携もせず抗爭もせず、來るものは拒ばまず去る者は追ず式に、且つ何ものにも依賴する處なく獨往せんとするものであつて現在中央に卷起りつゝある種々の不祥の影の響を完全に拒否し、且つ又何人の爲めにも利用せられず、其私兵化を斷然排擊する必要上、皇道義盟が此方針を取るも亦已むを得ざるものなる事は思はせる

皇道義盟は言ふゝ、敎化なき民衆の結束は空虛だ、個人の爲めの結合は私兵だ、應援を他に求むるは寄生だ弱體だ、如斯團體は斷じて國家を背負ふ可き力を有するものでない、故に皇道義盟は本質的敎化の下に强化擴大を企圖し火の如く鐵の如き、結晶體たらんとするものである。

軍部發表の國防パンフレットは、祖國難局打開克服の指針であり、國民經濟を確立し民衆生活を安泰ならしめ、其業に安んぜしめ、萬民齊しく皇恩に浴し得る社會改革の軌道であり、これにより始めて擧國一致は得られ外難を突破し皇道を世界に光被し得らる。如上の趣旨を皇道義盟は其成立の基礎理論として立ち之れを民衆に普及敎化する所以である。

此の意義を有する團體に對しては、軍部は陸軍省であれ海軍省であれ、參謀本部であれ軍令部であれ、敎育總監部であれ馬耳東風に聞き流す譯にも行くまい、殊に各師團に於て、各聯隊區に於て、從來の如き日和見的態度である事も許されまい、軍部の爲めには其意思普及の絶好の機關であり機會であると同時に皇道義盟は又た絶大なる提携體として、其の尻を敲き其腰を起たせざれば止まないであらふ。斯くして眞に國民一致の實は擧げられ、祖國の危機を無難に克服し得るものとの信條に依り結成せられたるものである。皇道義盟は必ずしも九州のみのものではなく、日本全國に對し動きかける意氣を有するものなるも、然し又た九州以外の地に陸軍パンフレットを基盤として立つ團體あれば之れを歡迎し、提携協調し以て國事に盡瘁することを辭せざる無我無欲の結成體たる處に言ふ可からざる高價さが存在する、此の特殊色彩を有する義盟が九州に結成せられたる今日九州以外にも當然同種の結成ある可き筈にして、此の威力こそ祖國將來を救ふものなりとの希望を與へたる事は確かである。

（昭和十年二月十一日建國祭當日久留米に於て）

謹啓仕り候

邦家非常の秋益々御隆昌の段爲　君國大賀至極に奉存上候

陳者當九州に於ては二月十一日建國祭の佳節を卜し憂國の士相參集して玆に皇道義盟の結盟を見るに至り候に就ては其の趣意別紙宣言綱領明示の如く新らしき國民運動を展開せんとするものに候

その内容に至りては別記「雜誌愛國」稿の一加盟員の記述の通りに候間御併讀賜はり度候

如斯運動は全國到る處官界、政界、軍部、敎育界、宗敎界、實業界に論なく又男女を問はず、あらゆる所に捲き起さるべき性質のものにして斯くてこそ始めて昭和維新の聖業を翼賛し危機を克服して皇運を無窮に扶翼し奉り得べきものと確信致候

如上の見地により此の際國民本然の責務觀念より各縣（地）盟團を指導し、鞭韃し、援助し、庇護し或は進んで義盟に參加し此の運動の擴大强化に又九州以外の各地に在りては同一趣旨の下に同憂の士の共に蹶起して一日も速かに吾等と提携活躍せられんことを念願す

敬白

昭和十年二月十一日

皇道義盟

九州總司令部代表
陸軍歩兵大佐　塚本明之
假事務所　久留米市新町毛呂護一郎方
自宅　福岡縣八女郡水田村

大分縣盟團長
陸軍歩兵大佐　小松安太郎

佐賀縣盟團代表
陸軍歩兵少佐　家永直種

福岡縣北部盟團代表
海軍機關少佐　庄野平左衛門

福岡縣中部盟團代表
白石慶雄

福岡縣南部盟團代表
陸軍歩兵中佐　吉村康

皇道義盟顧問部代表
文學博士　鹿子木員信

長崎縣盟團長
陸軍歩兵中尉　鶴川近太

鹿兒島縣盟團長
陸軍歩兵大佐　福留龜太郎

熊本縣盟團長
宮崎縣盟團長
陸軍騎兵少佐　石坂愼一
河野圭三

殿